

『 禅のころ - 曹洞宗 - 』

七福神

平成28年1月第2週放送

えびす だいこくてん べんざいてん びしゃもんてん ふくろくじゅ じゅうろうじん ほていそん しちばしら
恵比須、大黒天、弁財天、毘沙門天、福祿寿、寿老人、布袋尊の七柱
の福の神様が七福神と呼ばれるのは、みなさんご存じのことでしょう。

これらの神は、もとは、それぞれ個別に信仰されていました。出身地もさまざま
で、大変バラエティに富んでいます。

出身地別に見てみましょう。

日本出身は、恵比須えびすです。『古事記』に登場する蛭子命ひるこのみことに由来する、海からの
頂き物に感謝をするという信仰から、商売繁盛や五穀豊穡ごこくほうじょうをもたらす神となりま
した。

インド出身で、なおかつ日本の神と結びついたのは、大黒天だいこくてんと弁財天べんざいてんです。

大黒天は、ヒンドゥー教の神であるシヴァ神しんの分身であるマハーカーラが仏教に
取り入れられ、大黒天となりました。日本に入ってくると、大國主命おおくにぬしのみことと結び
つき、食物や財福をつかさどる神になりました。

弁財天は、もとはインドの川の女神サラスヴァティーで、仏教に取り入れられて
弁財天となりました。音楽、知恵、財福をつかさどる神で、日本に伝わってから宇賀神うがじん
などさまざまな神と結びつきました。

インド出身で、日本の神と結びつくことがなかったのが、毘沙門天びしゃもんてんです。

古代インドで財宝福德をもたらす神として信仰されたクベーラ神しんが、仏教を守る
四天王してんのうのうちの一となり、戦いくさの神として信仰を集めました。やがてもともと
の性格から、財宝の神となりました。

中国出身は、福祿寿ふくろくじゅ じゅうろうじんと寿老人ほていそん、布袋尊ぶたいそんです。

福祿寿と寿老人は、道教どうきょうにおいて幸福をもたらすといわれる南極星なんきょくせいという
星の化身で、特に寿老人は、道教の開祖老子らうしと結びつきました。幸福、富、長寿
をもたらす神です。

布袋尊は、唯一じつざいの实在じつざいの人物といわれています。中国唐とうの時代の終わり頃に、
大きな布ぬのの袋ふくろを担いで諸国を旅したことから、その名前がつきました。その袋
からは、尽つきることなく食べ物が出てきたそうです。

それぞれ、別々の福の神であったものが、七福神という形になったのは江戸時代
で、そこには、仏教の僧侶が一役ひとやく買っているといわれています。

『 禅のころ - 曹洞宗 - 』

徳川家康の側近であった僧侶^{てんかいしやうにん}天海上人が、七福神に対応する七つの徳を定め
ました。

恵比寿は「清^{せい}廉^{れん}・清らかな心」、大黒天は「有^{ゆう}福^{ふく}・幸福な心」、弁財天は「愛^{あい}敬^{きやう}
・柔^{やわ}らかな心」、毘沙門天は「威^い光^{こう}・威^い嚴^{げん}ある心」、福祿寿は「人^{じん}望^{ぼう}・信^{しん}頼^{らい}される
心」、寿老人が「寿^{じゆ}命^{みやう}・命を大切に^{たい}する心」、布袋尊が「大^{たい}量^{りやう}・広^{ひろ}い心」で、
お参りを^{まじり}してそれぞれの徳を身につけることで、七福神から福がもたらされるとさ
れました。

七福神は、お参りを^{まじり}するだけで御利益があると思われがちですが、実は、心の徳
を身につけることが主眼とされたのです。

みなさんも、七福神巡りを、ご自分の心を見つめるきっかけとしてみても良いの
ではないでしょうか。

— 終 —